

優秀賞

小学校の部

社会を明るくするために

鹿ノ台小学校 五年 由利 有俐紗

社会を明るくするためには、いじめを無くすなど助け合いをしたり、「大丈夫だよ。」や「安心してね。」など相手が落ち着いてくれるような言葉を言い合ったりしてみんながほっこりできるような事があるといいです。

私は昔、幼稚園児のときによく引越したり、幼稚園が潰れたりして、全部で4つの幼稚園や保育園に行っています。でも、どんな幼稚園や保育園でも一回もあつたことがない私を明るく迎え入れてくれました。

私はみんなが心の明るい人でとても嬉しく思っています。もしその人が心の優しい人ではなかったら不登校の人が増えると思います。みんながその人の心を考えることで、みんなの心が明るく、社会が明るくなります。きっとみんなが笑顔になれば世界が豊かになって笑顔が溢れる世界になると思っていま

す。みんなが他の人のことを気遣ったり安心できる言葉を言ったりすると思います。

私は自分がされて嬉しいことを他人にもできるようになりたいです。

例えば色んな人の心を明るくするにはどうしたらいいでしょうか。そのためには町内をきれいにするといいと思います。ゴミ拾いや自然の木や花を植えることによってみんなは気持ち明るくなると思います。

私の小学校ではメダカを飼っています。植物などを植えなくても動物を飼うだけで気持ち明るくなるのはどうしてかと思いました。それはきっと世話をする、命の世話をするのと同じことだと思います。植物に水をあげるのも同じだと思います。

みんなの笑顔が作れるということはその人はとても立派で優しい人だと私は思っています。

私はいじめられたことやいじめられている人を見たことがあります。世界にはいじめられていて心に大きな傷ある人がたくさん

いると思います。私はある始業式のときに校長先生からいじめられた人の心の中を話してくれました。いじめられた人の心はたくさん矢が刺さってしまい、もしいじめた人から謝られて矢が抜け落ちても矢が刺さっていたあの穴は消えないと話してくれました。いじめられていてあとから謝られてもその傷は消えないということです。その言葉を聞いて私は怖くなりました。私はいじめられたくないし、もちろんいじめたくもありません。みんなが人のことを思う「思いやり」をこれからみんなが使って、みんなを笑顔にして行きたいです。人に言葉を言うときはその言葉が言つて人が傷つかないか、その言葉をも自分言われて悲しくないかを確認することが大事です。

気持ちが明るくなるとその笑顔で他の人のことも笑顔で、気持ちを明るくすることができます。そのために毎日笑顔で学校にも仕事にも行きたいです。

一人ひとりが社会を照らす

鹿ノ台小学校 五年 羽場 万純

私は、公園で友だちと遊んでいました。その時にずっと公園をぐるぐる回っているおばあちゃんがいました。私と友達はその中で遊んでいました。そんな中おばあちゃんが、ずっと公園を回っていました。そして心配して私の友達が、「だいじょうぶですか？」と聞いていました。そしておばあちゃんが「大丈夫だよ」と、答えました。友達はホッとしたような顔をして、良かったという顔をしていました。

私は、何も声をかけられなかった自分が恥ずかしくなりました。その後はみんなで良かったと思えました。全員がそんな気持ちになっても、私の少し恥ずかしい気持ちはずっと心の奥に残っていました。このことを思い出し、私は社会を明るくするということは、人のことを思い合う気持ちなのかなと思えました。一人ひとり、人を明るくする道具は持っていて、その道具をどのように使えるかそれが社会を明るくすることなのかなと思

いました。だから、その道具を使ってほしい心を照らして明るくする。そうして明かりはどんどん灯って行って、きっと社会は明るくなっていく。そうやって一人ひとりが、色々な人に照らす心を持っていけばきっと少しずつでも社会は明るくなっていくと思います。

だけど心に傷を持った人や、どうしても話しかけにくい人、障がいを持っている人、広く社会を見ると沢山の人がいます。そういう人たちにも目を向けていかなないと一向に社会が明るくなることはない、思ったんです。だけど無理して話しかけるのは違います。もしもそのおばあちゃんが話しかけられなくなったら、話しかけて変な人だったらどうしようそんな不安がいつも頭をよぎります。だけど、一人ひとりが社会を照らさないと、社会は絶対に明るくなることはない、そう考えて、「二人ひとりが社会を照らす」その言葉を大事にしていきたいのです。それでも、私はあのと話しかけられなかった。まだまだ「社会を明るくする」ということは、私の中ではまだまだでした。だけど私はこの体験

を通して、社会を明るくするということは一人ひとりが努力みんなにどんどん明かりを繋いでいき、社会はゆっくりと明るくなっていく、それは車椅子の人でも、耳が聞こえなくても、話せなくても、国籍が違ってても、そして今回のように、年が違ってても、きっと、一人ひとは繋がれてきつといつかはみんなに明かりが灯るそうやって社会は明るくなっていく、社会はみんな同じ考えを持っている人だけでできているんじゃないみんなにそれぞれ個性があつてそれを一人ひとりが輝かせる、一人が動かないと絶対に社会全体が明るくなることはないから、それは誰かを心配するだけでなく褒めることやお互いをわかり合うことでも、広がってゆく私もあの時話しかければひろがっていた。

私はあのとときの反省を活かし今から人を心配してあげたりリスpektしたりお互いをもっとわかり合ったりどんどん楽しい社会の輪を広げていきたいなと思えました。

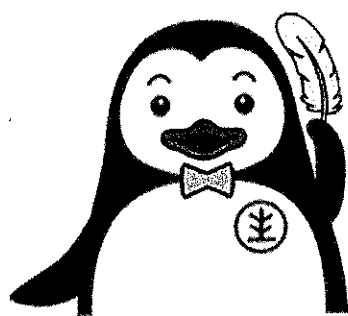
笑顔とあいさつ

生駒東小学校 五年 増田 朱音

みなさんは街の人に笑顔であいさつをしていますか。街で出会った人に「こんにちは」ねる前に「おやすみなさい」と日常であいさつをしています。あいさつをするとな日を気持ち良く過ごせますね。さらに笑顔で、あいさつをしたら言った方も言われた方もうれしくなると思います。たとえその笑顔が本当ではなくても言われた方はうれしく、元気づけられることでしょう。笑うと体の免えきがついて、元気になるという結果もあるそうので、病院のかんご師さんは、かん者さんが元気になることもふくめて、笑ってお仕事をされていくそうです。私の地域の方は帰ってくると、「おかえり」とあいさつをしてきているし、話もしたことの無い人にもあいさつをしてくれています。ボランティアの人たちもあいさつをしていて、皆が笑顔になっていきます。ですが中にはあいさつをしていてくれるのに無しをしていたり、おじぎをするだけでもない言わない人がいます。言った方は

せつかくあいさつしたのにな。と思うことでしよう。みんなであいさつをして、言った方をがっかりさせないような声でしっかりあいさつをしましょう。あいさつはマナーでもあります。さっきの無しはもちろんですが言われるのを待っていたり、言われなかったからいいやと思う人も少なくはないでしょう。そこでいいゲームがあります。これは、校長先生に教えてもらったもので、相手より先にあいさつをするゲームで今日は10人に先にあいさつをした。3人に先にあいさつをしてもらって負けた。など友達と競い合ってみるのもいいですね。一人があいさつをして、地域全体が変わるわけではありませんが、みんながあいさつをすることであいさつをした人の周辺はあかるくなります。さらにあいさつの達人は今からお世話になる人に、「よろしくおねがいします。」なにかしてもらったときには、「ありがとうございます。」と言っています。このような一言をつけ加えるだけで、この人はしっかりしているな。と思ってもらえます。そのときに大事なのは本当に思っ

るかじゃなくて、そう思っているように見せられるかです。そうするだけで相手はうれしくなります。人間はささいなことでも人がらが出ます。ほんのちよつとのことでもあいさつができる人になれるようにみんなが良い習慣をつけましょう。このように笑顔やあいさつは、大事ということをみなさんに伝わったでしょう。日常であまり気にしていないあいさつや笑顔のいいところを知れたと思います。あいさつも笑顔もちよつとしたことです。いまの自分を、おもいつきり変えないとできないことじゃありません。ですがちよつとしたことでも、ちよつとした幸せが生まれるのです。そして、みんなでその幸せを分け合って、地域が明るくなることを願います。



ホゴちゃん